

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4678000193
法人名	有限会社 徳寿苑
事業所名	グループホーム 寿の家
訪問調査日	平成21年11月30日
評価確定日	平成21年12月29日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4678000193
法人名	有限会社 徳寿苑
事業所名	グループホーム 寿の家
所在地	熊毛郡中種子町牧川1680-1 (電 話) 0997-24-8080
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年11月30日

【情報提供票より】(21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	1人, 非常勤 10人, 常勤換算 4人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	平屋建て	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	61 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	多愛病院 日高歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

眼下に海を望む、緑豊かな丘の中腹に建てられたホームである。地域の行事に参加することに加えて、ホーム主催の新年会や敬老会に、地元の方々にも参加していただくことで、さらに交流を深めている。日常的にも近隣の方が気軽に立ち寄ったり、野菜を届けてくださるなど、地域の一員として、ごく普通のお付き合いがなされている。法人としてホームヘルパー養成事業を行っており、職員のキャリアアップとともに、地域全体の福祉向上にも尽力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題の一つであるプライバシー確保について、失禁時の声かけや入浴時および排泄時のプライバシー確保の方法など、羞恥心への配慮について研修を行い徹底している。さらに、職員心得を目につく場所に掲示しており、尊厳を重視したケアを心がけている。他の課題についても、仕組みや書式の改訂など、具体的な改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を職員全員に配布し、各自が評価した上で、職員会議において管理者が説明しながらまとめ上げている。外部評価結果についても職員会議で報告し、改善に向けて積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、地域代表者・民生委員・行政担当者・利用者家族が参加している。ホームの活動や行事について報告し、出された要望や意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置し、面会時にはご家族から意見や要望を聞けるよう、積極的に話し合う機会を設けている。ご家族から出された要望に対しては早急に改善策を講じ、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の学校や幼稚園の運動会、相撲大会の見学などに出かけている。中学校跡地の体育館にて、他施設の利用者と合同で運動会を開催し、運営推進委員やご家族を招待するなどして交流を図っている。また、ホームの新年会や敬老会には、地域の高齢者を招待して交流を深めている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で、事業所の果たすべき役割を反映した理念を作りあげている。さらに、根本的な考え方に加え、理念に基づいたホームのあり方をまとめている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	廊下やホールに理念を掲示し、運営者は具体的な考え方を職員に説明している。また、職員会議や日々のケアの中でも、理念に基づく個別ケアの方法について管理者が指導し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の学校や幼稚園の運動会、相撲大会の見学などに出かけている。中学校跡地の体育館にて、他施設の利用者と合同で運動会を開催し、運営推進委員やご家族を招待するなどして交流を図っている。また、ホームの新年会や敬老会には、地域の高齢者を招待して交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を職員全員に配布し、各自が評価した上で、職員会議において管理者が説明しながらまとめてあげている。外部評価結果についても職員会議で報告し、改善に向けて積極的に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域代表者・民生委員・行政担当者・利用者家族が参加している。ホームの活動や行事について報告し、出された要望や意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者に、ホームの行事に参加してもらっている。また、ホームの役割を地域に浸透させるため、働きかけの方法についてアドバイスを受けるなど、緊密な関係作りを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「寿便り」を年三回発行し、ホームの活動内容や行事の報告を行っている。月に一度は、面会時に健康状態や生活の様子を報告しており、遠方のご家族や状態変化があった場合は、その都度電話で報告している。また、預金通帳と金銭出納帳は毎月確認してもらい、確認印をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、面会時にはご家族から意見や要望を聞けるよう、積極的に話し合う機会を設けている。ご家族から出された要望に対しては早急に改善策を講じ、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入職者があった場合は必ず引き継ぎ期間を設けており、馴染みの職員が同行しながらケアの方法を指導している。利用者の反応や入職者の習得状況に応じて、徐々に介入できるように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の研修計画を立て、法人が主催しているヘルパー養成講座受講を含めて育成に努めている。障害者施設での体験学習や、外部研修への参加、スキルアップのための支援なども行い、知識・技術の向上に努めている。	○	さらなる資質の向上のために、職員の経験や立場・習熟度等に応じて、段階的な学びの機会が得られるように、計画的な育成に取り組むことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の福祉施設での見学・実習の機会を、年に一回設けている。また、他事業所の見学受け入れも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にはホームを見学してもらい、他の利用者と一緒にお茶を飲む機会を作っている。希望に応じて体験入居も可能である。見学に来られない方については、職員が自宅や病院を訪問し、徐々に馴染めるように配慮して取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人やご家族から聞いた生活暦を重視しながら、調理の方法や農作業上のアドバイスをいただき、力量に合わせて手伝ってもらっている。また、人生観や方言、地域の歴史について教えていただく機会を作り、感謝の言葉を添え、支えあう関係を築くように取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者に対しては、ご家族からの情報を得ながら相談したり、本人からのサインを察知しながら検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の意向や要望を聴取し、職員を含めた関係者で話し合いながら介護計画を作成している。必要に応じて、担当者会議に医師も参加してもらい、アドバイスを受けて計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケース会議の中で、関係者間で現状を話し合いながら介護計画の見直しを行っている。申し送りや日々の状態記録をもとに、本人およびご家族の要望や職員から出されたサービス内容変更の提案を基に、計画の見直しがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型通所介護およびショートステイを行っており、近隣の高齢者が状況に応じて利用できるようになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族の希望に沿ったかかりつけ医となっている。受診の際は基本にご家族が同行しているが、緊急時やご家族の要望があれば職員が同行している。受診時にはケースファイルを持参して医療機関に情報提供しており、必要時には医師に紹介状を書いてもらうなど、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用申し込み時と利用開始時に、重度化や終末期に向けた事業所としての方針を説明している。さらに、状態変化の都度、ご家族や医師と話し合い方針を決めて、職員全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁時の声かけや入浴時および排泄時のプライバシー確保の方法など、羞恥心への配慮について研修を行い徹底している。さらに、職員心得を目につく場所に掲示しており、尊厳を重視したケアを心がけている。記録物などの個人情報は、適切に取り扱われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就床・食事時間など、利用者の希望や状態に応じて、柔軟に対応している。個別のサービス手順書をそれぞれの居室に置き、排泄の場所や起床時の注意事項など、利用者本意のケアが実施できるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや後片付けを、利用者と職員が一緒に行っている。外食や行事食を取り入れたり、誕生日には、本人の希望するメニューにするなど、食事を楽しむことができるように支援している。また、畑で採れた野菜や差し入れの魚などを使って調理し、季節感を感じられるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏場は毎日、冬場は週に三回の入浴となっているが、希望や状態に応じていつでも入れるようになっている。「入浴確認表」で入浴の実施をチェックし、入る順番はなるべく希望に添えるように柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草取りや料理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、しめ縄作りなど、生活歴や力量に合わせて力を発揮できる機会を設けている。また、懐かしいビデオを鑑賞したり、外食やご家族との外出など、楽しみごとの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご家族との外出や散歩、ドライブ、つわぶき取りなど、外出の機会を多く設けている。地域の行事などにも、希望に添った参加ができるように支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることなく、自由に出入りできるようにしている。利用者が外出されそうな場合は、引き止めることなくさりげなく付き添い見守るなど、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、消防署の協力を得ながら防災訓練を実施している。夜間想定も含めて、通報・避難・消火訓練を行っている。緊急連絡網やマニュアルを作成し、職員への周知に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	地域の保健センターや病院の栄養士に献立表を見てもらい、専門的な観点からのチェックおよびアドバイスを受けている。食事摂取量は記録されており、水分摂取量については、病状によるチェックが必要な利用者の場合に記録している。その他の利用者については、大まかな水分摂取量の目安は定めているが、一人ひとりの摂取状況は記録していない。	○	十分な水分確保を支援するためにも、一人ひとりの水分摂取状況を記録に残し、職員間での引継ぎ時に把握しやすくすることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの一角に畳のスペースやソファが置かれ、玄関先にはベンチも設置されており、思い思いの場所で居心地良く過ごせるように配慮されている。建物の周囲には季節の花々が植えられ、ホーム内にも飾られており、季節感を感じることができるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの箆笥やベッド、テーブルやテレビ、写真、装飾品などが持ち込まれ、居心地良く過ごせる配慮がなされている。		